

（追加1321）商流活用のマーケット調査及び（追加4085）海外等販路開拓の結果（令和3年度補正品目団体輸出力強化緊急支援事業）

日本ブドウ産地協議会

令和4年度マレーシア ブドウ・モモ商流活用のマーケット調査（追加1321）

第1回 調査期間（2022年9月17日～25/26日）

日程	地域	内容	宿泊
9月17日（土）	東京→マレーシア	移動日	クアラルンプール
9月18日（日）	クアラルンプール	スーパーマーケット市場調査	クアラルンプール
9月19日（月）	クアラルンプール	スーパーマーケット市場調査	クアラルンプール
9月20日（火）	クアラルンプール	スーパーマーケット市場調査 フルーツ小売チェーン ヒアリング	クアラルンプール
9月21日（水）	クアラルンプール	大手青果物卸会社 ヒアリング	クアラルンプール
9月22日（木）	ペナン	大手フルーツ卸会社 ヒアリング ペナン大手スーパー 市場調査	クアラルンプール
9月23日（金）	クアラルンプール	スーパーマーケット調査	クアラルンプール
9月24日（土）	クアラルンプール	スーパーマーケット調査	クアラルンプール
9月25日（日）	クアラルンプール	フルーツ小売店調査 クアラルンプール国際空港	クアラルンプール
9月26日（月）	マレーシア→東京	移動日	

目的

小売店での価格、販売状況やマレーシアの市場動向を店頭調査や卸売関係者からのヒアリングを元に調査する。

マレーシア ブドウ・モモ市場調査 日本ブドウ産地協議会 第2回 調査期間（2022年12月16日～21日）

日程	地域	内容	宿泊
12月16日（金）	東京→マレーシア	移動日	クアラル ンプール
12月17日（日）	クアラルンプール	商社ヒアリング 小売店調査	クアラル ンプール
12月18日（月）	クアラルンプール	フルーツチェーン店面談 小売店調査	クアラル ンプール
12月19日（火）	クアラルンプール	小売店調査 飲食店関係者ヒアリング	クアラル ンプール
12月20日（水）	クアラルンプール	商社ヒアリング 小売店調査	クアラル ンプール
12月21日（木）	マレーシア→東京	移動日	

Covid19情報

マレーシアは2022年8月以降、
入国前のPCR検査、ワクチン撮
取証明、隔離等は不要。入国
時のサーマルスキャナーのみ。
ローカルは比較的マスクを着
用しているが、海外からの入
国者はほぼマスクなし。
JAL機内ではマスク着用を求め
られる。

マレーシア ブドウ・モモ市場調査 日本ブドウ産地協議会



都心部 英系スーパー

韓国産巨峰450g MYR90≒JPY2,900

韓国産シャイン450g MYR92.9≒JPY3,000

US産マスカット1kg MYR60≒JPY1,900

中国産シャイン1pc MYR60-65≒JPY2,000



近郊 ローカル高級スーパー

韓国産シャイン1p

MYR75≒JPY2,400

韓国産桃 2玉

MYR37≒JPY1,200

日本産シャイン1p

MYR180≒JPY5,800

日本産デラ300g

MYR59≒JPY1,900

マレーシア ブドウ・モモ市場調査 日本ブドウ産地協議会



ペナン 日系スーパー

日本産黄金桃 2 玉 MYR68.5≒JPY2,100

日本産デラ300g MYR57.9≒JPY1,850

日本産シャイン500g MYR104.9≒JPY3,400

日本産巨峰350g MYR73.0≒JPY2,400

韓国産シャイン450g MYR76.5≒JPY2,450



大手果物輸入商社
小売、卸売の動向ヒアリングと日本産果実の商談

マレーシア ブドウ・モモ市場調査 日本ブドウ産地協議会

1 価格動向

9から10月は、低価格の中国産シャインマスカット（1,000～2,000円）が豊富に供給されていた。

韓国産シャイン（1パック450g/房）は、前年より高価格傾向であったが、販売状況を見て11月以降値引き販売をしている。日本産シャインマスカットは、現在の国内相場では現地販売価格が、MYR190/房（5,500円）程度となってしまうため、贈答需要に絞った販売が想定され、露地シーズン（9-10月頃）を避けた供給が得策と考えられる。

高額価格帯であってもMYR100（約3000円）程度までが売りやすい。

例年12月になると、日本産以外のシャインマスカットは流通していないが、今季は韓国産シャインマスカットが低価格で販売を続けている。450g/房 2パックMYR88（約2700円）もある。中国産は見かけない。

桃は福島産が豊富に販売されていたが、例年より価格も上がり、店頭で傷みかけた商品も多い。

2 商社動向

青果卸大手A社は、コロナ禍や社会情勢の変化を経て、利益の確実な商材に絞った堅実経営の方針が伺える。日本産青果でも、より条件の良い提案をした産地を選択する傾向にある。

果実卸B社は、卸売とスーパー納入が5：5であったが、現在はインターネット直販が15%、倉庫直売5%、卸売40%、スーパー納入40%となっている。ネット直販の比重が増加している。

3 小売店状況

コロナ禍を経て、全般的に運営人材が非常に不足しており、小売店は店頭の商品管理が行き届いていない。高級品は鮮度を含めた品質と品揃えが求められるため、適切な商品管理がなされないチェーンへの客足は鈍い。

一方で、低価格店も必ずしも好調を維持できていない。薄利多売の果実チェーンでも、高級志向の品揃え検討するなど新しい業態を模索している。

4 規制

柑橘類、マンゴーに対する検疫上の規制は従前通り。

関税税率 生鮮ブドウ 基本税率（3-10月 20%、11-2月 13%） EPA税率（3-10月 7.7%、11-2月 2.0%）

生鮮モモ 基本税率（10%） EPA税率（無税）

基本関税税率が高いため、特定原産地証明の効果的な活用が望まれる。

日本ブドウ産地協議会 令和4年度マレーシア海外等販路開拓事業（追加4085）

下記のとおり実施結果をご報告します。

対象国	マレーシア
実施期間	10日間 2022（令和4）年12月16日（金）～12月26日（月）
実施場所	クアラルンプール市内 3店舗にて実施 展示販売3店舗、プロモーター試食2店舗）
実施者	日本青果物輸出協会

今回の販売促進活動は、韓国等から出荷が減少する冬季において、2か月間冷蔵したシャインマスカットの販売を中心に行った。

冷蔵ブドウでは、貯蔵コストもかさむことから195.80マレーシアリングgit（約5900円）の価格で販売を行った。日本産高級果実を多く扱う専門店や伊勢丹では、感心をもつお客様も多く、問題なく販売できるものの、中上級スーパーでの販売は厳しい傾向であった。その理由としては、中上級スーパーには、当初の予想に反し、12月になっても廉価で比較的品質の良い中国・韓国産が継続的に販売されていたことから、現地プロモーターによると、そうした影響を受けているとのことであった。こうしたことから、今後春節などを狙った販売戦略が必要かと思われるが、これまでの貯蔵経験から、3か月貯蔵ではブドウに痛みが発生する懸念もあることから、さらなる貯蔵技術の向上が望まれる。

一方、店舗の要望を受けて調達した日本産のイチゴに関しては、品質、甘さ等日本品質が浸透しており、消費者の関心も高く、比較的順調に販売を進めることができた。

その他、日本産野菜については、マレーシアの若年層は家庭で調理をする習慣が乏しいため、野菜単体での販売促進ではなく、食べ方、調理方法の普及などにも注力し、販売促進活動を展開する必要性を感じたところである。

